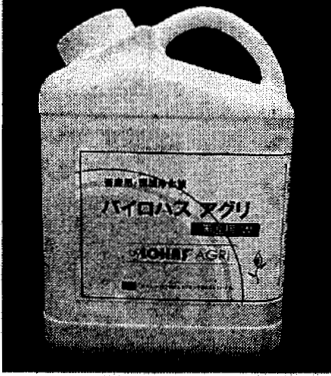


害虫駆除剤

養鶏業者向け拡販

日本エコロジア

米穀物大手カーギルグループなどが出資するベンチャー企業の日本エコロジア(東京・渋谷、西嶋康祐社長)は九月から安全性の高い害虫駆除剤を養鶏業者向けに拡販する。既存の殺虫剤と異なり、人体や動物への影響が少なく、駆除剤を使った日に生まれた鶏卵を出荷できる。食中毒の原因となるサルモネラ菌の殺菌効果もある。



飲食店などに販売している害虫駆除剤を養鶏業者向けに改良した

養鶏業者向けに売り始めるのは「バイロハスアグリ畜産用 W」。「ニーム」と呼ぶ樹木の実から抽出した油など天然植物成分から作る。合成殺虫剤のように毒剤を虫に食べさせるのではなく、虫が呼吸する穴をふさいで窒息死させる。すでに飲食店などに販

サルモネラ菌 殺菌効果も

売している駆除剤に、サルモネラ菌の殺菌効果や消臭効果など成分を加えて改良した。自社販売のほか、動物用の飼料や医薬品を扱う卸など販売代理店を募集して、全国の養鶏業者へ売り込む。一以一万円で、初年度五千万円の売り上げを目指す。

養鶏業者はニワトリに寄生するタニなどの駆除に合成殺虫剤を使っている。しかし、二〇〇六年五月から改正食品衛生法により規制されている成分を含むため、殺虫剤を使用した日に生まれた鶏卵は出荷できずに損失が発生する場合がある。

バイロハスは農業や飼料添加物など約八百品目の規制対象成分を含まないため、駆除剤を使った日に生まれた鶏卵も出荷できる。すでに合成殺虫剤に使用している噴霧器を利用できる。一以を五百〜一千倍に希釈して三〜五日に一度、噴霧する場合の費用は合成殺虫剤と同程度という。

日本エコロジアは〇三

年設立。資本金は一億四千三百五十万円で、従業員は十五人。殺虫剤などの開発・製造を手掛けている。